

「監査役と内部監査部門の連携をどう深化させるか」

- 【問題提起者】 石北 俊彦氏（元 応用地質(株) 常勤監査役）
【外部ゲスト】 大谷 剛氏（一般社団法人 実践コーポレートガバナンス研究会理事）
【コーディネータ】 板垣 隆夫氏（元 日本オキシラン(株) 常勤監査役）
【会場】 文京区民センター3F 3-C会議室

<大谷 剛氏略歴>

1980年、山之内製薬株式会社入社。研究所にて新薬開発に従事したのち、欧州駐在員（英国、オランダ）、Shaklee Corporation（米国）社外取締役、IR統括等を歴任。2005年、山之内製薬株式会社と藤沢薬品工業株式会社の統合に伴い、Astellas Pharma Europe Ltd.（英国）出向、欧州統括会社内部監査部門長。2009年、アステラス製薬株式会社監査部長。2013年、同社常勤監査役。2016年、イオンフィナンシャルサービス株式会社社外監査役（現任）。1978年 慶應義塾大学工学部卒、1980年 慶應義塾大学大学院卒（工学修士）、2003年 英国レスター大学大学院卒（MBA）。公認内部監査人、公認不正検査士、公認情報システム監査人。

【時間割】（14：00～17：00） *終了後、三宝庵にて懇親会

- はじめに&休憩&後片付け 25分
- 石北氏報告 40分（14：05～14：45）
- 大谷氏報告 50分（14：45～15：35）
- 質疑・意見交換 65分（15：45～16：50）

【質疑・意見交換】

- (1)報告者への質問 (2)「論点」に関わる意見 (3)現役監査役の自社事例紹介

【論点】

- ◆監査役と内部監査部門の双方向でのコミュニケーションと協働を阻む壁をどう乗り越えるか
—監査役側の壁、内部監査部門側の壁
- ◆内部監査部門のデュアル・レポートライン論は現実的に可能か
—日本の内部監査部門は基本的に社長直属であり、報告にとどまらず指示命令権や人事権を監査役等に与えるのは現場に混乱をもたらすだけではないか
—監査役の指示命令、人事権の範囲
- ◆形式的でない実効的な三様監査会議の在り方
—三様監査会議の議題、運営方法
—要としての監査役役割
- ◆実効的な合同監査（往査）の具体的なやり方
—目的、監査方法、レポート先の相違を踏まえた協働の在り方
—具体的な方法・手順 スケジュール、チェックリスト、インタビュー、監査講評、報告ルート
- ◆内部統制報告制度への監査役関与の在り方
—専門性が高くかつ作業負荷が高い財務報告に係る内部統制評価・監査に監査役が関与できるか
—対象や手法の異なる会社法内部統制と金商法内部統制報告制度の統合的運用の方法